

## 平成 29 年度 第 5 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

### (キャリア協) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※今回の問題の中心になってくるのが、アセスメント (検査) の知識です。実際に体験するのが効果的です。

- ①職業興味に関するもの「VPI 職業興味検査」「職業レディネステスト」など (仕事理解に役立つ)
- ②職業適性に関するもの「職業適性検査」「キャリアインサイト」など (自己理解に役立つ)

[設問 1] 逐語の空欄 A で、キャリアコンサルタントとしてあなたならどのような応答をするか記述せよ。

(10 点)

「花粉症の症状がひどく就活は休止状態で、気づくと周りは内定が出て、大事な時期に就活しなかった自分に嫌気がさしているのですね？」(2 行)

[設問 2] キャリアコンサルタントとして、あなたが考える相談者の「問題」を記述せよ。(10 点)

「実際の職務内容について理解することなく仕事を憧れだけで選択し (仕事内容理解不足)、また、自分にはどのような仕事が合うのかやりたいのかについて探ることなく (自己理解不足)、自己のキャリアビジョンが明確でないため、就活に行き詰まりを感じていること。」(4 行) ※ ( ) 内は書かなくても可

[設問 3] この事例の展開に関し、以下の問いに応えよ。(30 点)

(1) Z さんに対しどのような提案を行うか。逐語の空欄 B に入る、あなたが考える語句を 2 つ記述せよ。

- ①「自身の職業に関する適性や興味」
- ②「自分自身の性格や行動特性」

※ ①が「職業 (職務) 理解」にあたります。②が「自己理解」にあたります。

(2) 設問 3 (1) で解答した 2 つのうちいずれかを選択して、キャリアコンサルタントとしてあなたはこの先、どのような働きかけを行うか、具体的に記述せよ。

①のケース

自己のキャリアビジョンを明確にし、自分に合う仕事を探すために、職業適性検査などのアセスメントを受けてみてはどうかと提案する。具体的には、能力・興味・価値観・行動特性の 4 側面から評価できる「キャリアインサイト」を紹介し、その結果をもとにした自己の適職とマスコミ関係の営業職を照らし合わせることで、自分に合う仕事を明確にするよう提案する。また、単なる「憧れ」や今ここでの視点で自己の仕事について考えるのではなく、短期・中期的視点でのキャリアプランの作成を提案することで、やりがいを持って仕事を続けられるよう支援していく。